



令和4年度 大莞小学校重点目標 考える子どもの育成

回覧

ゆうかり

大木町立大莞小学校
三瀨郡大木町奥牟田 250
TEL32-1504 FAX75-8163
Email:ooisyo@kumin.ne.jp

学校だより No.9 令和4年 8月 29日 校長 石橋 修

引き続き、体調管理にご留意ください

長がった夏休みも終わり、今日から前期後半がスタートします。この夏休みは新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた行動制限がありませんでした。人の往来も昨年よりも多くなったこともあってか、新規感染者数も高止まりの状況です。引き続き、学校の方でも感染防止対策を講じながら、教育活動を進めてまいりたいと思っています。保護者の皆様には、引き続き、下記の対応等をお願いいたします。

- ①登校前の朝の検温をして体調を確認して、登校させてください。
 - ②登校中もマスク着用し距離を保って登校するよう各家庭でもご指導ください。
 - ③健康に不安のあるお子さんや家族に発熱の方がいらっしゃる場合は、登校をお控え、ご連絡ください。
- ※ 登校を控えたいお子さんは欠席扱いとなりませんので学校へご連絡ください。

環境を整える大切さ～下関国際高の快進撃～



第104回全国高校野球選手権大会はが仙台育英（宮城）が初優勝を飾りました。今回の大会で一躍有名になったのが、準優勝校の山口県代表の下関国際高校です。

今大会では今春センバツ優勝の大阪桐蔭、同準優勝の近江（滋賀）と並みいる強豪を破るなど快進撃を続けました。

なぜ、無名の存在だった同校野球部が、日本一を争う舞台にまで上り詰める劇的な躍進を遂げることができたのでしょうか。

その裏側には「リアル滝沢賢治」としても評判高い、坂原秀尚監督（45）の「熱血ドラマ」がありました。

下関電気工業を前身とする下関国際の野球部は1965年に創部。坂原秀尚監督が2005年夏に就任するまでの40年間で、夏の山口大会初戦を突破できたのは7回だけのけて強豪校ではありませんでした。

当時、グラウンドには雑草が生え、整備用のトンボは1本もなかったそうです。練習環境や道具に恵まれず、選手は私服の半袖シャツと短パンで練習に臨んでいたそうです。

しかし、在籍していた11人の部員は坂原監督とともに荒れたグラウンドを整備。草をむしり、落書きだらけの部室をペンキで塗るなど練習環境を整え、当初の目標だった秋季県大会出場にこぎつけました。その後は、勝てる野球部へと成長していく下関国際へと変貌を遂げていくのであります。

小、中学時代に素晴らしい成績を残した選手が入部せずとも、下関国際を選んだ選手たちの心身（人間性）をいかに鍛え上げ、勝利に導くか。この精神でチームは急成長していきます。

今回は、環境に着目して下関国際高校の快進撃の要因を考えてみたいと思います。「グラウンドには雑草が生え、整備用のトンボは1本もありませんでした。練習環境や道具に恵まれず、選手は私服の半袖シャツと短パンで練習に臨んでいた」とのことです。

子どもは、大人よりも環境からの影響を大きく受けます。そのことを考えれば、監督がつくったよりよい環境として①規律の徹底、②環境美化、③目標達成のための練習の継続、、、が予想されます。

小学校においても、共通している部分も多いかと思えます。上記の3つにもし、加えるならば④賞賛の言葉かけがあるのかもしれない。

前期後半のスタートに当たって、学校としては「物構え：筆入れの中身、ノート等」「身構え：授業中の姿勢等」「心構え：目的、目標をできるだけ明確化させる」等に留意して、よりよいスタートを切らせたいと考えています。ご家庭でも、1度、子ども達の筆入れの中身の点検をお願いできればと思います。宜しくお願い致します。



8月後半から9月の主な行事予定

8月29日（月）前期後半開始	20日（火）読み聞かせ（1～3年）
午前中授業	21日～30日 街頭指導
31日（水）5、6年委員会活動	26日（月）校内研修会
9月 1日（木）中学生職場体験	全児童 14:40 下校
2日（金）クラブ活動	28日（水）学校関係者評価委員会
5日（月）命の朗読会（5年）	29日（木）6年生のみ6校時授業
6日（火）読み聞かせ（1～3年）	※6年生授業時数確保の為
9日（金）町内教職員研修会	30日（金）代表委員会
12日～16日夏休み作品展	「スポーツ集会について」

※詳細は学校配布プリントをご確認ください